

(二) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

土曜日は節子のくる日だった。節子は私の婚約者だった。私たちは翌年の四月、私が大学院の修士^アカテイを修了したら、結婚することになっていた。(1) 私の就職は、F県のF大に内定していた。

節子は英語とタイプと、それに少しばかりのフランス語ができ、翻訳係兼タイプピストとして、ある商事会社に勤めていた。結婚したら節子はそこをやめ、F県で英語の先生の口でも探すつもりであった。私たちは結婚を、強いて急いではいなかったが、またあまりくり^イノべるつもりもなかった。(2)

私たちは愛し合っていただろうか。それは判らない。恋人同士と呼ばれてよいような仕方では、愛し合っていなかったかも知れない。ただ、^A私たちは、互に好感を持ち合っていたし、やっけて行けるだろうと考えていた。少なくとも、私は、自分たちの間柄について、そう考えていた。

節子は私のトオ^ウエンの親戚であった。そして、親たちが気が合い、親しかったので、私と節子は、小さい時から従兄妹同士のようなつき合い方をさせられてきた。だが、成長するにつれ、二人は自分たちが特別に気の合う間柄という訳でもないことに次第に気づいた。(3) 以前の節子は、今と違って、激しい気性だった。私もそうおとなしいたちではないだろう。しかし、節子の持っていた何ものかが、私には欠けていたらしい。私たちは中学時代、高校時代、休みには互の家に行き来して、遠慮のない親しい間柄ではあったが、互が相手の中へ深く入り込んでしまうということは決してなかった。

私が東大に入って上京してきた年、節子は高校三年であった。次の年節子は東京女子大に入り、翌年英文科に進んだ。しかし、私は節子の家である佐伯をあまり訪れなかった。私は佐伯の人たちをきらつてはいなかった。(4) 私は節子に好意を持ちつづけてはいたが、佐伯の人の一人である節子よりは、ただの女友だちとつき合う方が心安かった。

そうやって、私は駒場で、留年の一年を含めて三年、本郷で二年、^a学生として過ごし、大学院に進んだ。専門は英文学だった。

その間、恋をしなかったと言えば、嘘になろう。(5) そして、恋する時、私は大体真面目だった。だが、私が真面目であれ

ばある程、私の恋は、いつも、真面目な恋とはならず、情事といったようなものになって行った。ある時期には、私は自分の情事を、これは情事ではない、本当の恋なんだ、と思ひ込もうとし、またある程度思ひ込みました。 ^Bだが、女の子たちは、私が彼女たちのことを、決して本当には愛していないこと、愛することのできないことを敏感に感じ取り、私から離れて行った。

大学院に入った年の春、その合格祝いに招かれた佐伯の家で、私は、節子と結婚しないかということ、ほのめかされた。節子には異存はないような口振りであった。私はその話よりも、久し振りで注意してみた節子が、以前とははつきり違った感じを持ってきたのに、気をひかれた。感じのいい笑い顔、少し大人びたが、やはり娘らしい優しき、時折見せる b、そういうものには全然変りがなかった。だが、その時の節子には、どことなく、しかしはつきりと、以前には決してなかった、全ての事柄に対するある種の投げやりな感じがあった。節子を知らぬ人なら、その変化には気がつくまい。仮に気がついても、強情な所であった娘が、あまり自分に ^Eコウテイしなくなった、よい傾向と思うだろう。節子は投げやりになったその分だけ、ひとに優しくなっていたから。だが、私は節子を知っていた。 ^C節子は苦しんだのだな、と思った。

節子は大学に入った当座、女子大の歴研の部員になり、当時学生の中でも最左翼として知られていた駒場の歴研との合同研究会に出席していた。私も一、二度、駒場の構内で節子と出会い、立話をしたことがある。節子は、ある時は楽しげな様子であり、ある時は疲れてみえた。また、研究会だけではなく、実際の学生運動とも無関係ではなかったらしい。私が、他の平凡な学生たちと同様、何事も経験だと思つて出かけた一、二回のデモの折にも、東京女子大の一握りばかりのささやかなデモ隊の中に、節子の姿をみた。そして、そういう活動の間に、節子が恋愛をしていないはずはないと、私には思われた。私の知っている節子は、何人もの男の学生とつき合いながら、一人も好きになる相手を見出せないような女の子ではなかった。

(柴田翔『されど われらが日々——』より)

注 「駒場」「本郷」 共に東大のキャンパス。当時は、まず駒場で二年間、次いで本郷で二年間、講義を受けるのが一般的だった。

(設問の都合上、本文の一部を改めた)

問9 傍線部ア、エの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の1〜5の中から、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

15。

ア. カテイ

12

- 1 事件のケイカ
- 2 代々のカギョウ
- 3 カギョウ工事
- 4 リカの授業
- 5 ニッカを終える

イ. くりノべる

13

- 1 ノベの送り
- 2 クッシン運動
- 3 意見をノべる
- 4 独立をセンゲンする
- 5 金のノベ棒

ウ. トオエン

14

- 1 エングンを送る
- 2 俳優のエンギ
- 3 エンガン漁業
- 4 エンギが悪い
- 5 エンジュクの境地

エ. コウダイ

15

- 1 コウナンを使い分ける
- 2 コウトウで伝える
- 3 犯人をコウソクする
- 4 期末コウサを受ける
- 5 コウサ点を渡る

問10 傍線部A「私たちは、互に好感を持ち合っていたし、やって行けるだろうと考えていた」とあるが、「私」と節子の間柄について正確に述べているものはどれか。次の中から一つ選べ。解答番号は

1 二人ともインテリであり、高め合いながら英文学を究めようとする学問上のよきパートナーである。

2 年齢の近い従兄妹で、同じ英文学を学ぶ先輩でもある「私」に節子はほのかな憧れを抱き続けてきた。

3 もの考え方や性格などが同じというわけではないが、適度な距離を保ちつつ遠慮のない親しい間柄である。

4 自分より学生運動に熱心な節子に、「私」はいつの間にかともに戦う同志としての連帯感を抱くようになった。

5 幼い頃から同じ家で従兄妹同士のように育てられ、特別に気の合う間柄ではないがお互いに気心が知れている。

問11 空欄 a を補う最適なことはどれか。次の中から選べ。解答番号は

1 きまぐれな

2 おとなしい

3 怠惰な

4 左翼的な

5 平凡な

問12 傍線部B「だが、女の子たちは、私が彼女たちのことを、決して本当には愛していないこと、愛することのできないことを敏感に感じ取り、私から離れて行った」とあるが、「私」が彼女たちを本当には愛せなかった理由と考えられるものはどれか。次の中から一つ選べ。解答番号は 。

- 1 真面目な恋を望んでも、心の底に潜んだ邪心に負けてしまうから。
- 2 英文学が面白くなって、専ら学問に心を奪われるようになったから。
- 3 自意識が災いして、自分の恋愛に対しても距離を置いてしまうから。
- 4 婚約者である節子以外の女性を本当に愛してしまっは申し訳ないから。
- 5 厳しい自己省察の結果、劣等感を抱いて内側に閉じ籠もってしまうから。

問13 空欄 を補う最適なことばはどれか。次の中から選べ。解答番号は 。

- 1 才知
- 2 泣き顔
- 3 冷たさ
- 4 茶目っ気
- 5 負けん気

問14 傍線部C「節子は苦しんだのだな、と思った」とあるが、「私」は節子が何に最も苦しんだと考えているか。次の中から最適なものを選べ。解答番号は 。

- 1 商社会社での人間関係
- 2 学生運動の渦中での恋愛
- 3 男性に伍して生きる上での軋轢あつれき
- 4 社会的弱者のために戦った運動の挫折
- 5 「私」との結婚を決意するまでの煩悶

問15 文中から「だが、それはわずらわしかった。」の一文が省略されている。どこに入ればよいか。文中の(1)～(5)から選べ。解答番号は 。

- 1 (1)の箇所
- 2 (2)の箇所
- 3 (3)の箇所
- 4 (4)の箇所
- 5 (5)の箇所

問16

この文章について述べた文としてふさわしいものはどれか。次の中から一つ選べ。解答番号は 22。

- 1 バブルが弾けた後の就職氷河期を無事に突破した高学歴カップルの恋愛を細やかに描いている。
- 2 軽薄な男子学生が要領よく就職先も結婚相手も手に入れる姿を、現代の世相を背景に描いている。
- 3 若者たちが社会問題や恋愛、自身の生き方などと真摯に向き合った時代の恋愛を内省的に描いている。
- 4 学問に志して上京しながら、遊戯的な恋愛にのめり込んでしまった「私」の立ち直りが描かれている。
- 5 結婚を目前にしたカップルが、深く理解していたはずの相手の意外な一面に戸惑う姿を克明に描いている。